ＪＲ東海労なごや

2010年12月14日　　No828号
JR東海労名古屋地方本部
発行者：　山　田　哲　也
編集者：　堀　部　　肇

自治体に維持管理をおまかせ・・・・
名松線不通区間復旧に一歩前進したにはしたが

「いくら防止策をとっても、大きな被害がでる」
と言っていたのに ？

条件が整えば名松線復旧

昨年10月の台風の被害で一部不通となっている名松線について、ＪＲ東海の山田社長は定例記者会見で「自治体の治山治水工事と維持管理の条件が整えば復旧する」と述べました。それを受けて三重県や地元津市の首長はそろって歓迎の姿勢を見せています。条件付きで復旧する事について地元の負担はどうなるのでしょう。不安は残ります。結局、地元住民に負担をかけることになります。

かっては名松線の存続に否定的だったＪＲ東海会社

ＪＲ東海幹部は地元の存続要求に対し「いくら防止策をとっても大きな被害が出てしまう」と早々と復旧に見切りをつけ実質上廃止にむけて進んでいました。

それがここにきて工事を地元が負担するという条件で復旧の方針が出されました。復旧工事はとても無理と言っていたのに地元が工事を引き受けるならば「とても無理」がいつのまにか復旧に変わってしまうＪＲ東海幹部の認識には驚きです。

復旧には歓迎だが・・・

地元にとっては存続にむけ一歩前進ですが、これからのことを考えると、手放しに大歓迎とはとても思えません。将来に渡り地元に負担を押しつける、鉄道経営は無責任といえます

私たちは、赤字で息詰まった国鉄を復活させました。それは鉄道を守るためであって一部経営陣の野望を達成するためではありません。

東海労は地元の足を守るために奮闘します。